

## 11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

### [1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

#### (1) 市民協働のまちづくり

##### ① 景観条例及び景観計画の活用

港町油津、城下町飫肥、日南海岸国定公園、坂元棚田など、本市には個性的で魅力ある景観が数多くあり、これらの資源を活かして、快適な暮らしや賑わいと活力のあるまちづくりを推進するため、「景観条例」を制定した。

景観条例制定後、特に景観形成が必要な地域として、大正から昭和初期の港町の町並みが残る油津地区において、本市で最初の「景観計画」を策定し、堀川運河を中心として伝統的な町並みが残っている区域を「重点区域」、運河周辺で住居等が立地する区域を「区域Ⅰ」、商業施設が集積する区域を「区域Ⅱ」として、それぞれの区域で色彩や形態意匠など、具体的な規制等が示されている。

現在は、市民への認知度が高まったこともあり、「景観計画」に基づいて、沿道の植栽や住居景観の改善などの活動が始まりつつある。

##### ② 日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン）の活用

中心市街地を縦断する国道 220 号を含むルートが同街道に登録され、『多様な活動や豊富な地域資源や歴史・文化を結びつけ、連携させることで、「うつくし」、「もてなし」、「いやし」のきらめき空間の創造を図る。』という考えのもとで、多様な主体による協働により、地域資源や個性を生かした活動が始まっている。

#### (2) 観光推進の取組

##### ① 各種観光モニターツアー等の実施

中心市街地の観光地化を図るため、日南市観光協会、宮崎交通(株)や JR 九州などの民間事業者、市民団体等と連携し、中心市街地の資源を活用した各種観光モニターツアー等を実施している。

##### ア チョロ船運行実験

油津港まつりや堀川まつりなどのイベント時の乗船体験を含め、毎月 1 回運行実験を実施。多くの市民や観光客に乗船を体験していただいている。

##### イ チョロ船体験と油津路地裏散策ツアー

油津の観光地化に向け、チョロ船の乗船（艦漕ぎ）体験と歴史的資産を活かした路地裏散策のクイズラリーに、新鮮な魚の寿司定食をセットで 1,000 円とした日帰りツアーを、市観光課と日南市観光協会がタイアップして企画・実施。21 名が参加。

#### ウ 歴史・神話と油津ロマンツアー

複数の市民活動団体と市で構成する「シーニックバイウェイ日南・北郷・南郷エリア推進協議会」により、本市への新たな観光客の創出とリピーターの確保を目的に、1泊2日のモニターツアーを実施。新聞、タウン情報誌、県の観光情報誌、観光協会ホームページ等で募集を行い、遠方では大阪の方を含め、17名が参加。

油津地区では、チョロ船の乗船体験のほか、人力車乗車体験、路地裏散策、地元焼酎蔵元での芋剥き体験や酒蔵見学、地元民による海の幸の振る舞い、油津の街並みを見渡せる津の峯登山、竹灯籠づくり体験を実施した。

#### エ JR観光特急「海幸山幸」で行く日帰り日南モニターツアー

宮交交通(株)旅行部とタイアップし、JR観光特急「海幸山幸」を活用して、市内各地を巡る日帰りツアーを2日間実施。2日間で61名が参加。

#### オ 歴女とめぐる神武天皇のふるさと日南に行くバスツアー

市内の旅行会社に委託し、古事記編さん1300年PR事業の一環として、神話にまつわる市内の神社や観光地を巡る1泊2日ツアーを実施。25名が参加。

また、現役大学生2名を歴史ガイド(歴女)として育成し、歴史(神話)の説明を行うガイドとしてツアーに添乗させた。

#### カ 日南一本釣りカツオ炙り重きっぷ

JR九州の企画商品として、JRの乗車券と本市の新ご当地グルメである「カツオ炙り重」をセットにした切符を、期間限定(H23.9.20~H24.3.31)で販売。

#### ② 油津港への客船寄港による来街者の拡大

油津港は、「飛鳥Ⅱ」などの豪華客船の寄港地となっており、観光PRの絶好の機会となっている。

平成15年1月に豪華客船「飛鳥」が入港後、毎年、寄港数に変動はあるものの、多数の国内船籍の客船が寄港している。

平成24年は、パナマ船籍の豪華客船「レジェンド・オブ・ザ・シーズ(乗客定員:1,800人)」が6回寄港するほか、飛鳥Ⅱやぱしふいっくびいなすなど、計8回客船が寄港する予定である。

客船寄港時には、岸壁に見学者も多数訪れており、中心市街地への来街者の拡大を図る上では、大きな要因のひとつとなっている。

③ テレビ、映画等を通じた対外的なPR効果

油津地区は、NHKの朝の連続テレビ小説「わかば」や、映画「男はつらいよ」のロケ地となって、一躍全国に名を知られるようになった。

その後も、テレビを中心にロケ地として注目を集めており、また、CMや雑誌の掲載などのロケ地としても活用されている。

## [2] 都市計画との調和等

### (1) 日南市総合計画(平成 22 年 3 月)

本市の総合計画において、中心市街地の活性化は、下記のように位置付けられており、本計画との整合性は図られている。

- ① 商業機能が集積している地区が、地域住民にとって買い物の場であるとともに、地域の歴史・文化を生かした楽しみ、安らぎ、潤いを与える快適生活空間となるよう住民との協働により整備を進める。
- ② 油津の商業地を中心としたエリアを中心市街地として位置付け、地域の歴史・文化を生かしたまちづくり事業の積極的な活用を図り、散策道路、公園及びポケットパークなどの環境整備を促進し、定住人口の維持・増加を図るとともに、快適で賑わいのある商業空間を創出し、大都市の商店街や大型店との違いの明確化を図る。

### (2) 宮崎県まちづくり基本方針（平成 20 年 3 月）

宮崎県のまちづくり基本方針において、本市は、県南圏域の中心都市として位置付けられており、本計画との整合性は図られている。

### (3) 都市計画マスタープラン

平成 21 年 3 月に合併した本市では、都市計画マスタープランを平成 24 年度中に策定完了の予定である。

宮崎県が策定した都市計画区域マスタープランでは、日南市の中心市街地を次のように位置付けている。

- 日南市都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針  
(都市計画区域マスタープラン)【宮崎県：平成 16 年 5 月】

中心市街地においては、多様な都市機能の強化や、都市基盤整備と商業機能の更新を図り、うるおいと活力のあるまちづくりを目指す。

また、基幹産業である農林漁業・観光と商工業とが連携し、地域の特性を活かした中心市街地の形成を目指す。

### [3] その他の事項

#### (1) 宮崎県との連携について

本市では、中心市街地活性化協議会のオブザーバーとして、県都市計画課、県商業支援課、商工政策課、県日南土木事務所、県油津港湾事務所、県日南県税・総務事務所の参加をいただいている。

また、個別事業の検討においても、県と協議・連携を図り、事業を進めている。

#### (2) 環境への配慮について

中心市街地の活性化を図る上で、環境に配慮したまちづくりは重要である。

本市では、地元産材である飫肥杉を活用した事業や公共交通機関の利用を促進する事業など、地球温暖化防止に向けた環境に対する十分な配慮を念頭に、各種事業を推進する。